

未来医療国際拠点整備・運営事業に関する評価

	評価項目（未来医療国際拠点基本計画(案)）に基づく）	取組実績・取組予定（人数について特に断りのない限りは延べ人数を示している）	本市の評価
①	<b>未来医療国際拠点にふさわしい機能の導入</b> ○R&D センター（創造） 交流促進施設（サロン等）、 研究開発支援施設群（産学医スモールオフィス等）、リエゾンオフィス、教育機関 ○MED センター（実践） 先端医療研究施設（細胞バンク）、クリニック、 高度検診センター、病院 ○中之島国際フォーラム（共有） カンファレンスセンター、交流促進施設	<div>○企業、医療機関、支援機関等の集積状況 未来医療の産業化に取り組む企業等の集積が進んでおり、賃貸可能延床面積の約 95%が契約済み（令和 7 年 7 月時点） 【R&amp;D センター】 交流促進施設・研究開発支援施設群：三井リンクラボ中之島 等、リエゾンオフィス：Rohto Cross Innovation Lab 等、 教育機関：大阪滋慶学園 【MED センター】 先端医療研究施設：京都大学 iPS 細胞研究財団, iPS ポータル、クリニック：整形外科, 歯科, 眼科, 内科 高度検診センター：ハイメディック大阪中之島、病院：桜橋渡辺未来医療病院 【中之島国際フォーラム】 カンファレンスセンター：コングレスクエア大阪中之島、交流促進施設：「交流・共創・発信」の場（Qrossover Lounge 夢）</div> <div>○「交流・共創・発信」の取組み 【令和 6 年度】 交流：国内外の視察対応（120 件、1,523 人(発信を含む)） 入居者交流会 等（35 件、1,817 人） 共創：アカデミアや企業等と連携したセミナー開催（26 件、1,068 人） 発信：市民講座や子どもを対象とした再生医療体験等（6 件）</div> <div>【令和 7 年度実施予定】 交流：国内外の視察対応、NQ-Quest 等 共創：アカデミアや企業等と連携したセミナー開催 発信：子どもを対象とした再生医療体験 等</div>	A. 概ね計画どおり取り組まれている ・iPS 細胞を使った細胞培養や新薬開発などをはじめ、最先端の医療に関連する様々な企業等の入居が進んでいる。 ・「交流・共創・発信」の場については、市民への再生医療の理解促進等に沿った活用が行われている。
②	<b>企業等間の交流・連携</b> ○入居企業等間の交流促進 ○コラボレーション機会の提供	<div>○企業間研究開発（大阪府未来の医療 Qrossover プロジェクト補助金を活用） 【令和 6 年度】 主体事業者：ロート製薬㈱ 共創事業者：サラヤ㈱、㈱住化分析センター 大成化工㈱、㈱日本触媒 内 容：高機能セクレトーム（細胞外分泌物）製剤の早期開発及び再生医療を身近にする調製デバイス・技術の開発</div> <div>○イベント等 【令和 6 年度】 ・入居者交流会（10 回、384 人）</div> <div>【令和 7 年度実施】 主体事業者：公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団 共創事業者：アース環境サービス㈱、学校法人大阪滋慶学園㈱、 ナカライテスク㈱、㈱日立プラントサービス 内 容：再生医療の実用化に向け、製造コストの削減と無菌性の確保を両立する閉鎖系製造プロセスの無菌性保証手法の確立</div> <div>【令和 7 年度実施予定】※回数は 8 月末までの実績 ・NQ 基礎セミナー（5 回、30～50 人/回） ・NQ-Quest（4 回、40～50 人/回）</div>	A. 概ね計画どおり取り組まれている ・大阪府の補助金制度を活用し、昨年度、今年度とそれぞれ企業間で連携し、共同研究や共同開発等に取り組まれている。 ・コラボレーション機会の提供としては、企業間連携を促す交流会や基礎セミナーなどが定期的の実施されている。
③	<b>企業・研究活動支援</b> ○クオリティデータ活用等による企業やアカデミアの研究支援	○ワンストップサービス ポータルサイトを整備し、「NQ セレクション」、「NQ コンシェルジュ」、「NQ まるっと&ロジ」といった市場探索から治療まで再生医療のサプライチェーンをワンストップでサポートするサービスを準備中	C. 現時点では実現に至っていない ・国の補助事業によりワンストップサービスのポータルサイトは整備済み。一部サービスの運用開始に向けた調整が進められている。
④	<b>人材育成</b> ○企業やアカデミアに必要な人材育成 ○起業家・ベンチャー育成	<div>○補助事業 ・創薬クラスターキャンパス整備事業（厚生労働省 補助事業）【令和 7 年度実施事業】</div> <div>○事業・イベント等 【令和 6 年度】 ・子どもの医科学体験イベント（2 件） ・滋慶科学セミナー（3 件） ・再生医療に関する市民講座（4 件） ・ライフサイエンスアントレプレナーシップ人材育成講座（全 7 回）</div> <div>【令和 7 年度実施予定】※回数は 8 月末までの実績 ・NQ 基礎セミナー（5 回、30～50 人/回） ・NQ-Quest（4 回、40～50 人/回） ・NQ Deep Tech Studio（プログラム全 18 回、隔月イベント 6 回） ・ライフサイエンスアントレプレナーシップ人材育成講座（全 7 回）</div>	A. 概ね計画どおり取り組まれている ・国の補助事業を活用しスタートアップ等の人材育成を実施するとともに、人材育成講座やセミナーなど大阪府や未来医療推進機構独自の人材育成にも取り組まれている。
⑤	<b>スタートアップ支援</b> ○新たな医療産業創出エコシステムの構築	<div>○入居企業による支援施設運営 ・三井リンクラボ中之島（3～5 階） ⇒三井不動産と Link- J が共同運営</div> <div>・(仮称)Life Science Innovation Campus（8～9 階） ⇒日本生命と CIC が共同運営【令和 8 年春 開業予定】</div> <div>○補助事業 ・創薬クラスターキャンパス整備事業（厚生労働省 補助事業）【令和 7 年度実施事業】 ：スタートアップ（22 社選定）を育成する取組。機構のエキスパートサポーターをはじめ、本拠点におけるネットワークを活かして伴走支援を行う。</div> <div>○事業・イベント等 【令和 6 年度】 SU 向けインサイトセミナー 等（11 件）</div> <div>【令和 7 年度実施予定】 中之島クロス GSU 創出・拠点化推進事業 等</div>	A. 概ね計画どおり取り組まれている ・スタートアップ支援施設が運営されており、今後、一層の充実が予定されている。 ・国の補助事業の活用によるスタートアップ企業の育成に加えて、スタートアップ向けセミナーやスタートアップを創出・育成するプログラムやイベントが実施されている。
⑥	<b>外部機関との交流・連携</b> ○国内外の医療機関とのネットワーク展開 ○京都・大阪・神戸のそれぞれの強みを活かした連携	<div>○連携協定件数 15 件締結【令和 7 年 9 月末時点】 【令和 6 年度】 ・海外 3 か国の機関との連携（UAE・オランダ・英国） ・外部組織 4 団体との連携（大阪商工会議所、東大阪市 等）</div> <div>【令和 7 年度締結済】 ・海外機関との連携（豪州・台湾 等） ・外部組織との連携（一般社団法人日本 PDA 製薬学会、KSAC 等）</div> <div>○海外からの訪問：46 か国【令和 6 年度】</div>	A. 概ね計画どおり取り組まれている ・これまでに国内外の 15 機関と MOU が締結されていることで、国内外の機関とのネットワーク強化が進められており、今後、更なる連携拡充が見込まれている。
⑦	<b>経営の健全性</b> ○体制 一般財団法人による運営 【管理部門、企業・研究活動支援部門、人材育成部門、海外連携部門、産学連携等部門】 ○マスターリース方式による運用スキーム、収益は拠点のオーガナイズを実施する原資として活用	<div>○組織体制 ・一般財団法人 未来医療推進機構が運営 ・事務局【管理本部（総務・財務部、広報部、不動産管理部）、事業推進本部（事業企画部、再生医療推進部、スタートアップ支援部、中小企業支援部、国際部）】</div> <div>○令和 7 年度収支計画 ・年度当初は厳しい状況であるが、年度途中には入居者からの賃料収入の増加により、収支は改善する見込み。</div>	B. 一定取り組まれているが、取組強化が必要である ・組織規程をはじめ内部規程を定め、これに基づき適切に運営されている。 ・開業時のイニシャルコスト等の負担により収支は厳しい状況であるが、昨年度と比べ入居率は約 95%（契約ベース）まで確保できている。今後は、残区画のリーシングを迅速に進めることが必要と考える。
※本市の評価（A：概ね計画どおり取り組まれている B：一定取り組まれているが、取組強化が必要である C：現時点では実現に至っていない）			⇒ 総評 「概ね計画どおり取り組まれている」